１０月 第６号
令和５年１０月３１日
開進第四中学校だより

すずしろ

～開拓・発展・完成～

校 長　田 邊 克 宣

『 感 動 。』

芸術の秋にふさわしい爽やかな陽光に輝く日。しかしニュースでは、合唱コンクールどころではない世界の国々の情勢が報道され、一方、ここ練馬区では、多くの学校で学級・学年・学校閉鎖となっている状況の中で迎えた１０月２１日。感染拡大により実施できないかもしれないという、そんな心配が杞憂に終わったことに、まず安堵しながら、無事に開催できる運びとなったこの平和をしみじみと噛みしめ、令和５年度 合唱コンクールが幕を開けました。なにしろ主役である生徒たちが、舞台に上がれなければ意味がありません。生徒たちが自分事として、よく意識して体調管理に務めたからこそ、予定どおりに開催できたのです。この間には、ご家庭でも感染防止にご協力いただいたことと存じます。ありがとうございました。

さて、本番の歌声は、どの学年どの学級も最高の出来映えでした。審査することが苦痛であるほど、それぞれの合唱に良さがあり、聴いていて幾たびも心が震えました。実に素晴らしかった。生徒たちは皆、真面目で真剣な姿勢で取り組みました。大切なことは、一生懸命に努力することで得られる真の楽しさを一人一人が知ることです。それに向かって心を一つに合わせた結果として、各クラスの素敵な歌声が体育館中の空気を震わせたのです。聴く者を感動させる、聴く者に生きる力を与える、そんな魔法の歌声を、各学級が披露してくれました。リモートでは感じることのできない生の歌声の中で同じ時間を過ごす、このかけがえのない貴重な行事を、全校生徒と、学年ごとではありましたが保護者の皆様と、そして教職員で共有できたことは、この一年の大きな財産であると、心より思います。

吹奏楽部の演奏もまた、都のコンクールで金賞をとった重厚な楽曲に、スイング感たっぷりのジャズやリズミカルなダンスミュージックと幅広い曲を披露し、会場全体が手拍子で一体となったこの経験は、なにものにも代えがたい、心の宝物です。

実行委員の責任感あふれる仕事ぶりも、特筆に値するものでした。そして、指揮者、伴奏者、パートリーダーの努力に応えた、各学級の仲間たち。開四中生一人一人の存在の大切さが浮き彫りとなり、その絆が創り上げた合唱コンクールは、“ 金賞 ”の出来でした。

保護者の皆様には、総勢５２２名もの方々にご参観いただき、温かい拍手を頂戴いたしました。開四中の伝統がまた一つ、積み重ねられましたことをご報告申し上げるとともに、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

～ 感染症対策徹底のお願い ～

３年生がいよいよ待ったなしの進路選択の時期に入りました。１．２年生は、後期の活動に意欲をもって取り組み始めました。本校では１０月３０日現在、主にインフルエンザ等による欠席者が増加傾向にあり、感染拡大予防のために、やむなく学級閉鎖も実施いたしております。

この状況は突発的に起こったものではありません。１０／２１（土）の合唱コンクールの時点で、すでに新型コロナウイルスとインフルエンザの発症が複数ありました。合唱コンクールから明けた先週に、感染症発症および発熱が増加し、週明けの３０日（月）に至っております。この間約２週間。潜伏期間等を勘案すれば、合唱コンクール当日以前から、すでに感染状況が生じていたこととなります。９月早々の学校閉鎖に続き、この季節、２か月に２回の学級閉鎖は、緊急事態と言っても過言ではありません。

保護者、ご家族の方々の感染についても複数の連絡を受けている現在、学校生活を停滞させることなく、生徒が“ 健康・安全 ”第一に過ごせるために、どうぞご理解とご協力を引き続きお願い申し上げます。